

龍谷大学大学院 政策学研究

The Bulletin of the Graduate School of Policy Science,
Ryukoku University

第4号

■論文■

- | | |
|--|-------|
| ユースワークの知見と理論を生かした学校防災教育の考察
——奈良県、静岡県、大阪府、兵庫県の個別事例から—— | 赤木 功 |
| 持続可能な地域社会づくりにおけるローカルアジェンダ 21 の意義と役割
——京のアジェンダ 21 フォーラムの成果と課題の分析を通して—— | 石崎雄一郎 |
| 中小企業の省エネルギーバリアの実態に関する考察
——バリア克服までのプロセスに着目して—— | 木原 浩貴 |
| 限られた水資源の配分について
——農業用水における需要と供給の調整手法の検討—— | 塩野 眞美 |
| 自治体の防災対策に関する一考察
——豪雨災害をめぐる行政と市民のリスクコミュニケーションを中心に—— | 田村 恭士 |
| 社会的責任に関する国際規格 ISO26000 の可能性を探る
——企業の男女共同参画推進の視点から—— | 中村奈津子 |
| 社会的困窮者を包摂する仕組みと自治体の役割
——パーソナルサポート事業・生活困窮者自立支援法の先へ—— | 中村麻伊子 |
| 鉄道新駅開設による経済効果の計量的予測と実態に関する研究 | 村山 雅俊 |
| 協働型まちづくりにおける行政支援のあり方についての考察
——京都市の市民提案型まちづくり支援事業を事例として—— | 山本 恵果 |
| まちの歴史的成立過程から見た賑わい空間の発生と衰退に関する一考察
——大津市の中心市街地活性化エリアを題材として—— | 吉川 博之 |
| 内発性の視点からみた滞在交流型観光の事例研究 | 李 夢君 |

龍谷大学大学院 政策学研究

第4号

龍谷大学大学院政策学研究編集委員会

目 次

論 文

- ユースワークの知見と理論を生かした学校防災教育の考察
——奈良県、静岡県、大阪府、兵庫県の個別事例から——……………赤木 功 (1)
- 持続可能な地域社会づくりにおけるローカルアジェンダ 21 の意義と役割
——京のアジェンダ 21 フォーラムの成果と課題の分析を通して——……………石崎雄一郎 (15)
- 中小企業の省エネルギーバリアの実態に関する考察
——バリア克服までのプロセスに着目して——……………木原 浩貴 (33)
- 限られた水資源の配分について
——農業用水における需要と供給の調整手法の検討——……………塩野 真美 (55)
- 自治体の防災対策に関する一考察
——豪雨災害をめぐる行政と市民のリスクコミュニケーションを中心に——……………田村 恭士 (71)
- 社会的責任に関する国際規格 ISO26000 の可能性を探る
——企業の男女共同参画推進の視点から——……………中村奈津子 (93)
- 社会的困窮者を包摂する仕組みと自治体の役割
——パーソナルサポート事業・生活困窮者自立支援法の先へ——……………中村麻伊子 (121)
- 鉄道新駅開設による経済効果の計量的予測と実態に関する研究……………村山 雅俊 (143)
- 協働型まちづくりにおける行政支援のあり方についての考察
——京都市の市民提案型まちづくり支援事業を事例として——……………山本 恵果 (169)
- まちの歴史的成立過程から見た賑わい空間の発生と衰退に関する一考察
——大津市の中心市街地活性化エリアを題材として——……………吉川 博之 (191)
- 内発性の視点からみた滞在交流型観光の事例研究……………李 夢君 (215)
- 要 旨…………… (241)
- 2014年度修士論文・課題研究題目…………… (265)

2014年度 修士論文・課題研究題目

題	目	修了生
真に緊急性を要する傷病者搬送のための不搬送判断		小田 浩文
大学における学生のボランティア活動支援に関する研究 ——大学ボランティアセンターを中心に——		片岡 華絵
地域的リノベーションによる林業再生		坂田 翔麻
内発性の視点からみた滞在交流型観光の事例研究		李 夢君
限られた水資源の配分について ——農業用水における需要と供給の調整手法の検討——		塩野 真美
インバウンド観光政策における通訳案内士制度の現状と課題		高橋 美花
社会的困窮者を包摂する仕組みと自治体の役割 ——パーソナルサポート事業・生活困窮者自立支援法の先へ——		中村 麻伊子
豊岡のコウノトリの野生復帰事業の取り組みについての一考察		千葉 有紀子
ユースワークの知見と理論を生かした学校防災教育の考察 ——奈良県、大阪府、静岡県、兵庫県の個別事例から——		赤木 功
持続可能な地域社会づくりにおけるローカルアジェンダ 21 の意義と役割 ——京のアジェンダ 21 フォーラムの成果と課題の分析を通して——		石崎 雄一郎
地域若者サポートステーションの実態と成果に関する研究 ——体験型就労支援を中心に——		大熊 晋
中小企業の省エネルギーバリアの実態に関する考察 ——バリア克服までのプロセスに着目して——		木原 浩貴
地域包括ケアシステム確立に向けての一考察 ——京都府京田辺市、埼玉県和光市、滋賀県米原市の介護予防政策の比較を中心に——		沢井 加織
自治体の防災対策に関する一考察 ——豪雨災害をめぐる行政と市民のリスクコミュニケーションを中心に——		田村 恭士
社会的責任に関する国際規格 ISO26000 の可能性を探る ——企業の男女共同参画推進の視点から——		中村 奈津子
NPO 法人を次世代につないでいくために ——京都府内の認定 NPO 法人からの一考察——		三嶋 孝佳
鉄道新駅開設による経済効果の計量的予測と実態に関する研究		村山 雅俊
協働型まちづくりにおける行政支援のあり方についての考察 ——京都市の市民提案型まちづくり支援事業を事例として——		山本 恵果
カンボジアの農村におけるマイクロファイナンス実践の考察 ——互助活動に着目して——		横山 浩平
まちの歴史的成立過程から見た賑わい空間の発生と衰退に関する一考察 ——大津市の中心市街地活性化エリアを題材として——		吉川 博之

執筆者紹介 (掲載順)

赤木	功	本学政策学研究科修士課程修了
石崎	雄一郎	本学政策学研究科修士課程修了
木原	浩貴	本学政策学研究科修士課程修了
塩野	眞美	本学政策学研究科修士課程修了
田村	恭士	本学政策学研究科修士課程修了
中村	奈津子	本学政策学研究科修士課程修了
中村	麻伊子	本学政策学研究科修士課程修了
村山	雅俊	本学政策学研究科修士課程修了
山本	恵果	本学政策学研究科修士課程修了
吉川	博之	本学政策学研究科修士課程修了
李	夢君	本学政策学研究科修士課程修了
大熊	晋	本学政策学研究科修士課程修了
小田	浩文	本学政策学研究科修士課程修了
片岡	華絵	本学政策学研究科修士課程修了
坂田	翔麻	本学政策学研究科修士課程修了
沢井	加織	本学政策学研究科修士課程修了
高橋	美花	本学政策学研究科修士課程修了
千葉	有紀子	本学政策学研究科修士課程修了
三嶋	孝佳	本学政策学研究科修士課程修了
横山	浩平	本学政策学研究科修士課程修了

龍谷大学大学院『政策学研究』内規

制 定 2011年9月28日
一部改正 2012年6月6日

(目的と名称)

第1条 龍谷大学大学院政策学研究科院生の学術研究の奨励及びその成果の発表のため、学術雑誌を年1回発行する。

2 この学術雑誌を『政策学研究』と称する。

(『政策学研究』の構成)

第2条 『政策学研究』には、修士論文、課題研究及びその他の研究成果（以下「論文」という。）並びに修士論文要旨及び課題研究要旨（以下「要旨」という。）を掲載する。

(論文提出資格)

第3条 『政策学研究』に掲載する論文を提出する資格を有する者は下記のとおりとする。

- ① 大学院政策学研究科在籍者。
- ② 大学院政策学研究科修了者。
- ③ その他編集委員会が認めた者。

(編集委員会)

第4条 『政策学研究』の編集に関する事項を管掌するため、『政策学研究』編集委員会（以下「委員会」という。）をおく。

- 2 委員会は、大学院政策学研究科所属の専任教員2名により構成する。
- 3 委員の任期は1年とする。但し再任を妨げない。
- 4 委員会に委員長をおく。委員長選出は委員の互選による。
- 5 委員会の招集は、委員長がおこなう。

(論文及び要旨の掲載手続)

第5条 論文は、委員会の定めた募集要項に基づき、本内規第3条に該当する者よりこれを公募する。

- 2 前項の論文のうち、原則として修士課程における指導教員の推薦に基づき、委員会が承認したものを掲載する。
- 3 要旨は、原則として前年度修士課程修了者全員の修士論文要旨及び課題研究要旨を掲載する。

(論文及び要旨の電子化及びインターネットでの公開)

第6条 『政策学研究』に掲載された論文及び要旨は、原則として電子化し、龍谷大学図書館ホームページ、機関リポジトリ等を通じてインターネットに公開する。

(著作権)

第7条 論文及び要旨の著作権は、その著作者が保持する。

- 2 論文及び要旨の著作者は、著作権の行使を龍谷大学に許諾するものとする。ただしこの許諾は、執筆者の人格権に影響を及ぼすものではない。
- 3 前項の許諾は、論文及び要旨の原稿が提出された時点で行われたものとする。
- 4 論文及び要旨における既存の著作物の利用（引用・転載等）に関し権利者との間に生じた紛争については、著作者がその任にあたる。

(事務)

第8条 『政策学研究』に関する事務は、研究部がおこなう。

付 則

この規程は、2011年9月28日より施行する。

付 則 (2012年6月6日第6条、第7条、第8条改正)

この規程は、2012年6月6日より施行する。

龍谷大学大学院政策学研究 第4号

2015年10月30日 発行

編集 龍谷大学大学院政策学研究編集委員会
発行 京都市伏見区深草塚本町67

印刷 株式会社 富山房インターナショナル
京都市南区吉祥院池田南町13

The Bulletin of the Graduate School of Policy Science, Ryukoku University

Articles

- Considerations of Disaster Prevention Education in School Incorporating the Knowledge and Theory of Youth Work:
Learning from Case of Nara and Shizuoka, Osaka, Hyogo Prefectures
Isao AKAGI
-
- The Role of Local Agenda 21 for a Sustainable Local Society:
Achievements and Challenges for Kyoto Local Agenda 21 Forum
Yuichirou ISHIZAKI
-
- A Study on the Actual Situation about "Energy Efficiency Barrier" in the Japanese Small and Medium Enterprises:
Focusing on the Process to Overcome the Barrier
Hiroataka KIHARA
-
- On Limited Water Resource Allocation:
A Study on Agricultural Water Supply-demand Adjustment Method
Mami SHIONO
-
- A Study of Countermeasures for Disaster Reduction in Municipalities:
Risk Communication between Local Government Employees and Citizens on Torrential Rain Case
Takashi TAMURA
-
- The Research on the Effectiveness of International Standard ISO26000, the Guidance on Social Responsibility:
From the Viewpoint of Gender Equality in CSR Reports
Natsuko NAKAMURA
-
- The System to Subsume People in Social and Financial Difficulty and the Role of the Local Government:
Advancing the Personal Support Business and the Law for Self-sustaining of the Social and Financial Poverty
Maiko NAKAMURA
-
- Can Hedonic Approach Evaluate the Implicit Assessed Land Value?:
Case Studies of the New Train Stations and the Land Prices in Kansai Region
Masatoshi MURAYAMA
-
- A Study on Administration Support Function for Citizen's Public Activities:
Case Study of a Subsidy Program in Administrative Work in Kyoto
Keika YAMAMOTO
-
- A Study on the Development and Decline of the Bustle Space as Seen from the Historical Formation Process of the Town:
As Subject the Center City Activation Area of Otsu
Hiroyuki YOSHIKAWA
-
- A Case Study on 'Tourism with Extended Stay and Interaction' in the Light of Endogeneity
Li Mukun